

平成30年度

京都教育大学附属高等学校

自己評価実施結果報告書

平成 30 年度 京都教育大学附属高等学校 自己評価実施報告書

1. 本校の基本情報

- (1) 学校名 京都教育大学附属高等学校
- (2) 所在地 京都市伏見区深草越後屋敷町 111
- (3) 生徒数 583人（男子292人、女子291人）、15学級（1学年5学級）
- (4) 教職員数
校長（併任）、副校長1、主幹教諭1、教諭33（うち任期付教諭3）、養護教諭1、非常勤講師10、ALT1、事務職員3（専任1、事務補佐員2）、非常勤用務員1

2. 本校の教育目標

未来を拓く確かな学力の保障と豊かな人間性の形成

3. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験、実証並びに実習の機関として、本学に附属学校（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校）を置く。（本学学則第56条）

本学附属学校は、児童、生徒又は幼児に対して、学校教育法の定めるところにより、教育又は保育を行うとともに、本学における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、本学の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。（附属学校規定第2条）

4. 本校の学校教育計画（年度重点目標）

- (1) 教科指導を充実させ生徒の学力の向上につとめる。
- (2) 進路指導を充実させる。
- (3) 自律的・自立的かつ人権意識の高い生徒を育成する。
- (4) 今日の教育課題に則した教育研究を推進し、その成果を還元する。
- (5) 教育活動の情報発信を充実させる。
- (6) 教育環境の保障と整備を行う。

5. 附属学校園の機能向上に関する取り組み

- (1) 教育実習の指導のより一層の充実及び教育実習の改善を図る。
- (2) 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。
- (3) 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の公表を図る。
- (4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取り組みを推進する。

6. 本校の特色

本校は創立当時から、自主自律の精神を重んじ、高い知性・健康な身体・豊かな情操の調和した人間形成に努め、生徒の能力・適性・進路などに応じた教育を進めています。

平成14年度から文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の研究開発校として第1期から現在第4期まで連続して指定を受け、科学技術人材の育成に努めています。また、平成28年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト」に位置づけられ、本学の「グローバル人材育成プログラム」事業と共に、グローバルリーダーに必要な能力の育成にも取り組んでいます。

自己評価区分	
A	十分に達成できた
B	概ね達成できた
C	十分に達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

平成30年度 京都教育大学附属高等学校 学校評価

①教育活動その他の学校運営に関する事項(学校教育法に基づく評価)

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教科指導の充実と生徒の学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習習慣を形成し学力の向上をはかる。 大学受験にも対応した授業や補習を行う。 	<p>生活時間調査の実施など学習習慣の形成に努めた。「演習」を中心とした科目の設置、平日の進学補習、長期休業中の進学補習についても実施したが、学習習慣がより定着し、授業及び補習が大学受験に向けてさらに効果的になるよう指導を充実させて行かなければならない。また、探究的な力を高める機会として、教科融合的な授業なども含めて実施し、効果的な指導法を検討した。</p>	B	<p>「教科指導の充実と生徒の学力の向上」に関わるアンケート項目の結果から、概ね出来ていると判断できる、「ややできている」が半数をこえているが、「大学受験にも対応した授業や補習を行っている」という項目について教員の評価は高いが保護者の評価は高いといえない。保護者の期待度が高い上に、取り組み内容、授業等の指導内容、目的等が保護者に十分伝わっていないのではないかと考えられる。「探究心、探究する力」を高めることが「大学受験に対応した」力を養うことにつながることを理解を得る説明が必要である。</p>	<p>授業・補習の目的や指導内容をより明確にし、生徒・保護者に対して、今後大学受験に必要な備えるべき力についても説明を行うよう改善する。</p>
(2) 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した計画的な進路指導を行う。 進路ガイダンス、進路ホームルームや個人面談を通じて生徒の進路実現を支援する。 	<p>引き続き学年と担当部署が連携し、外部講師による研修会で情報提供の機会を増やし、3年間を見通した計画が生徒・保護者に対しても十分に伝わるよう取り組んだ。ただ、高大接続による入試改革の状況について一部把握しにくいことがあった。</p>	B	<p>進路指導の充実について、生徒が主体的に進路決定できるような指導を実施することが必要である。新しい大学入試制度がまだ一部不透明な状況であり、必ずしも先行した指導が十分行っているとはいえない。そのことが教員の評価が低いことの一因でもあるので、新たな情報にも目を配ることや効果的な進路指導の実践が求められる。</p>	<p>新しい入試制度に対して、学校体制としての対応を強化し、生徒が「何を学びたいのか」を見極めて主体的に進路決定できるような指導を充実させるよう改善する。</p>
(3) 自律的・自立的かつ人権意識の高い生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生活時間の管理、身のまわりの環境整備、マナーの向上など生徒の基本的な生活習慣を確立する。 生徒の自主的な活動を尊重し、自らの判断で適切な行動を取ることができる生徒を育成する。 様々な教育活動を通じて生徒の人権意識を向上させる。 	<p>基本的な生活習慣指導については、毎学期2回の朝の校門指導週間において遅刻や服装に対する指導を行うとともに、週単位に集計して遅刻生徒への個別指導を行った。さらに、自律的・自立的な意識を喚起し行動を促す指導を行うことが必要である。また、様々な場面で人権意識を向上させる指導を行うことも必要である。</p>	B	<p>社会が求めている学力と人間性を併せ持った人間の育成について、アンケートでは生徒、保護者から高い評価が得られている。教員の評価が高くないのは、生徒ができていない生活の状況に直接向かい合うからであると考えられる。引き続き継続が必要な項目であり、教員が主導する指導に加え、生徒に考えさせて意識を高める取り組みが必要であると感ずる。</p>	<p>現状の把握に努め、課題を整理し、より自律的・自立的な意識を持てるよう指導体制を整える。</p>
(4) 今日的教育課題に則した教育研究の推進と成果の還元	<p>SSH、SGH-A、グローバル人材育成プログラム等の教育研究を推進し、成果を還元する。</p>	<p>SSHとSGH-Aを一体とした生徒研究発表会、教育実践研究会での教員の実践報告など研究を推進するとともに、校外への成果還元につとめた。さらに教育研究成果を地域の教育現場を中心に発信し、還元できる方策を探らなければならない。</p>	A	<p>附属学校としての責務のひとつである教育研究の取り組みが高評価を得ている。さらに外部に対して取り組んでいる教育研究のメリットを情報発信していけばよい。</p>	<p>研究発表会の開催の他にも多様な方法で成果を校外に還元するとともに、教育現場に必要な課題を見極めて研究内容を精選する。</p>
(5) 情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者への情報提供の機会を充実させる。 中学生、教育関係者への情報提供に努め、広報活動を充実させる。 	<p>ホームページ、配布物、説明会、面談等を通じて、生徒や保護者へ情報発信した。ホームページについては更新回数を多くしたが、必ずしも十分とはいえない面があり、今後も方法等を検討する必要がある。中学生等への情報提供については、中学校訪問、校外で開催される説明会への参加、パンフレットの発送等を実施した。</p>	B	<p>引き続きホームページの充実につとめるとともに、他の情報発信の方法として、マスコミの利用なども含め、多様な方法を考えられるのではないかと。一方、発信される情報の中身が魅力的なものとなることを忘れないようにしなければならない。</p>	<p>本校の情報発信の現状と課題を分析し、内容・方法・時期等の再考に努め、導出された課題について改善する。</p>
(6) 教育環境の保障と整備	<ul style="list-style-type: none"> 健康・安全に配慮した校内の環境整備をより充実させる。 適切な学習環境の整備に努める。 	<p>台風等による樹木等への被害に対して対応するとともに、安全と健康管理の面から校内の樹木の剪定、害虫駆除を行った。また、特別教室のPC機器の設置など、一部教育環境整備も行った。</p>	B	<p>環境整備については予算措置が関係してくるので、優先順位を付けてやるべきである。「財政状況が厳しい中」においてはよく努力していると思われる。設備等根本的な改善が行われないと根本的には解決しない問題ではないかと考えられる。</p>	<p>予算の範囲内で、的確な優先順位の下、効率よく環境整備を行うよう努める。</p>

平成30年度 京都教育大学附属高等学校 学校評価

②附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
教育実習の指導のより一層の充実及び教育実習の改善 (中期計画35)	大学の実地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。	教育実習指導について、大学の実地教育運営委員会及び実習指導研究会と連携して内容の充実につとめるとともに、自己評価となる「振り返りシート」の導入を周知した。	A	附属学校の存在意義のひとつである教員養成の実践の場としての機能を果たしつつ、その特徴・強みを最大限発揮し、大学における最先端の教育理論や研究成果を実践する場として、他校との差別化を図り、附属高校の魅力を高めることを継続して進めていけばよい。	教育実習全般について大学との連携をいっそう強化し、教員養成の実践の場として機能強化に努める。
大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。 (中期計画36)	・大学の「グローバル人材育成プログラム」事業に協力し、附属学校においてカリキュラムの試行や授業実践を行う。 ・SSH、SGH-Aの研究開発を大学と連携して取り組む。	大学の教員、他の附属学校園の教員とともに授業研究や研究開発に取り組んだ。大学との連携については、SSH及びSGH-Aの研究開発をはじめ、可能な限り関わる教員を多くし、その情報発信も強化して充実した取り組みを行った。	A	大学の方針に沿って、高校教員が連携して充実した教育研究が行われていると感じられる。	大学との連携を強化し、さまざまな教育研究が学校全体としての充実した取組に結実するよう努める。
地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の公表を図る。 (中期計画37)	・本学教育創生リージョナルセンター機構との共催、京都府・京都市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。 ・教育委員会その他学校関係者の学校訪問を積極的に受け入れる。	教育実践研究会、SSH生徒発表会等教育研究の公表に努めた。 学校訪問については、件数は少ないが依頼を積極的に受け入れた。	B	地域のモデル校としての存在意義が求められる中、可能な範囲で取り組みを進めていけばよい。限られた人員で教育研究の公表・還元に尽力していることが伺える。	教育研究成果をさらに社会還元できるよう効果的な情報発信に努める。予算節約のため、本校の『研究紀要』を『京都教育大学紀要』や『教育実践研究紀要』に統合するための課題を洗い出す。
業務改善及び教職員の働き方に関する取り組みの推進 (働き方改革)	・校務の効率化・情報化とともに、学校行事、部活動の活動日・時間、下校時刻を見直し、学校業務の適正化を図る。	年度初めに部活動の活動日、時間、下校時刻について従前の取り組みの徹底化をはかった。大学が策定した部活動ガイドラインに従い、さらに効率的・効果的な部活動指導を推進していかなければならない。 働き方改革については今後、大学による方針に基づいて改革をすすめる必要がある。	B	改善できる部分をピックアップするなどして、改善しやすいところから順次最良の改善を進めればよい。また、教職員の適正な業務環境の維持が、質の高い教育環境を維持させることにも繋がるので、働き方改革はすすめていくべきである。	教職員の適正な業務環境を維持するために、大学の方針に基づき働き方改革をすすめる。

平成30年度 学校評価 年間計画

京都教育大学附属高等学校

時期	評価の検討と実施等
3月	第2回学校評議委員会実施 平成29年度自己評価実施、学校評価結果及び改善策取りまとめ
4月	「平成30年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」策定並びに保護者・生徒配布周知 平成29年度学校教育評価項目、平成29年度学校評価年間計画の学長への報告
5月	学校評価項目等ホームページ掲載 平成29年度学校評価結果及び改善策、平成を保護者へ周知
6月	学校評議員の確定
7月	
8月	
9月	第1回学校評議委員会
10月	
11月	研究会発表会参加者アンケート実施
12月	保護者アンケート(3年生)・生徒授業アンケート(3年)実施
平成31年 1月	保護者アンケート(1, 2年)・生徒授業アンケート(1, 2年)・教員評価アンケート実施
2月	「平成30年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」自己評価作成 研究会発表会参加者アンケート実施
3月	第2回学校評議委員会実施 平成30年度自己評価実施、学校評価結果及び改善策取りまとめ
4月	「平成31年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」策定並びに保護者・生徒配布周知 平成30年度評価結果及び改善策、平成31年度学校教育評価項目、平成31年度学校評価 年間計画の学長への報告
5月	学校評価項目等ホームページ掲載 平成30年度学校評価結果及び改善策、平成を保護者へ周知